

ブナ科種子(ドングリ)は凶作

秋のツキノワグマ(以下、クマという)の出没を予測する基礎データを得るため、毎年、生息地域におけるブナ科種子の結実状況をモニタリングしています。

本年も、8月から9月前半にかけて、ブナ3箇所、イヌブナ1箇所、ミズナラ9箇所、コナラ10箇所、クリ6箇所について、目視により調査し、豊凶を判定しました。

その結果、ブナ・イヌブナとも全く結実が認められない程の「凶作」で、ミズナラ・コナラが並作に近い「凶作」、クリが「並作」でした。このことから府全体では「凶作」としました。

ブナ科種子の結実が凶作の時にはクマの秋の出没が多いといわれており、京都府でも「大凶作」だった平成22年はクマの目撃情報が多く寄せられました。これからのクマ出没に十分な注意が必要です。

ブナ科種子の豊凶状況(京都府)

樹種	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
ブナ	(凶)	(凶)	並	凶	並	凶	並	凶
イヌブナ	(凶)	(凶)	凶	凶	豊	凶	凶	凶
ミズナラ	(凶)	(凶)	並	凶	凶	凶	凶	凶
コナラ	並	並	並	凶	凶	並	凶	凶
クリ	並	並	並	凶	並	凶	並	並

()はシードトラップ法による